

## 第36期小田原市図書館協議会 第2回協議会 会議録

日 時 令和7年7月24日(木)15時から

場 所 小田原市立中央図書館2階 集会室

### 1 開会

### 2 委嘱状交付

### 3 部長あいさつ

### 4 委員自己紹介・職員紹介

### 5 協議事項

#### (1)図書館を使った調べる学習コンクール審査員の選出について【資料1】

○事務局説明(植田副館長)

野口委員長からの推薦により星崎委員を選任

### 6 報告事項

#### (1)利用者からの意見・要望について【資料2】【資料3】

○事務局説明(三樹係長・青柳統括責任者)

○質疑応答

〔北河副委員長〕 音に関して敏感な利用者がいる中で、図書館としてはどのように考えているか。

〔竹縄館長〕 静寂を保つエリアとお話をしながら利用するエリアを棲み分けする事例が存在する中で、細かいルールを設定することによって利用者に窮屈な印象を与える可能性がある。建物の構造や空間設計を十分に考慮しながら適切な取り組みを検討していく。

〔加藤委員〕 資料2 Q6 のようなクレームがあるが、小学校2年生の生活科の教科書に「町探検」という単元がある。その中に図書館へ行こうという一例が挙げられている。公共施設の利用方法に関する指導については、教科書の中にも具体的な事項が記載されている。これに基づき、子どもたちは施設内のルールやマナーを学ぶが、実際に施設に足を運び経験を通じてその学びを深める子もいれば、小さい頃から保護者の方に繰り返し連れて行ってもらうことで、自然に公共施設の利用方法を身につけている子もいる。館内がゾーン分けされていることや、掲示物を活用して利用者にルールを知らせる工夫が施されており、視覚的にわかりやすい情報提供が行われている。そういう工夫でマナーを教えていければいいと思う。

〔馬見塚委員〕 資料3 Q2 については、ご本人は納得されているのか。

〔青柳統括責任者〕 納得している。この方だから弁償を依頼したということではなく、次の方が気持ちよく読める状態になればならない。身に覚えがある場合には基準に基づいて弁償を依頼している。

#### (2)令和6年度 中央図書館事業報告概要及び評価について【資料4】

○事務局説明(植田副館長)

○質疑応答

- 〔加藤委員〕 情報発信というところで、広報やテレビで「海のはじまり」を見て、かもめ図書館に足を運んだ小学生が非常に多かった。今まで図書館へ行ったことのない子が、本を借りたという話も聞いた。主題歌を運動会で取り入れてダンスをする学校も多かったので色んな効果があったように思う。
- 〔西田委員〕 施設コンセプトに基づく取組の中で子ども読書活動の推進に向けた取組を図ったとあるが、子供向けのイベントは小学校や中学校の保護者に向けて周知するような取組をしているのか。
- 〔加藤委員〕 さくら連絡網という小中学校の保護者に配信されているメールがある。そこでイベント情報などを保護者の方は確認することができる。
- 〔植田副館長〕 以前は学校の方にもチラシを送っていたが、今はさくら連絡網がメインの周知方法となる。情報の詳細についてはさくら連絡網を確認していただければと思う。

(3)令和6年度 小田原駅東口図書館事業報告概要及び評価について 【資料5】

○事務局説明(植田副館長、青柳統括責任者)

○質疑応答

- 〔野口委員長〕 SNS で発信した情報に対して、利用者から SNS を見て来館した等のリアクションはあるのか。
- 〔青柳統括責任者〕 いいね！やビュー数のチェックをしている。ドクターイエローやロボコンの投稿をすると、数字が伸びる。X よりインスタの方が見る方が多いと思うので、イベント情報は X だけでなくインスタでもあげるようにした。
- 〔竹縄館長〕 どの SNS を主流とするのか選択が難しい。LINE 連携で図書カードのバーコードを表示できる機能を取り入れている。LINE 連携の普及を図りたい。
- 〔馬見塚委員〕 中央図書館も東口図書館も蔵書、イベント等とても充実していると感じる。両館、収蔵可能冊数を超えていると思うが、利用者からの購入リクエストも非常に多いと思うので、そういった事も周知していくべきではないか。
- 〔竹縄館長〕 東口図書館については、蔵書に対する貸出冊数が非常に高い数字で推移している。貸し出しを促進する選書はできているように思う。問題は中央図書館だと思っている。蔵書に対する回転率が東口図書館には及ばない。その経緯は、旧市立図書館から受け継がれている選書方針や、中央図書館の蔵書が東口図書館と比較して、利用者に「借りてみたい」と思わせる魅力を十分に発揮できていないように思う。国立国会図書館のデジタル化資料の提供や、代替手段の入手の仕方が時代と共に進化してきたと思う。今までの選書に捉われすぎるのも善し悪しで課題意識として持っている。
- 〔馬見塚委員〕 回転率は必ずしも大事なのか。滅多に借りられないが、あそこに行けばあるというのが大事だと思う。小田原の図書館には特色のあるコレクションがあり、コアな人しか借りないと思うが、そのような蔵書があるというのが大事。静岡県立図書館では、平成 12 年頃から日本で発売されるすべての児童書を購入し

ている。圧巻で研究図書として非常に貴重。中央図書館もそのような特徴を持っている図書館なので、もっと周知していけると良い。

〔竹縄館長〕

参考にさせていただきたい。

〔加地委員〕

子供が読むことを想定したライトノベルやアニメの本を購入してほしいという利用者の意見があるが、両館ではそういったジャンルの本の購入は年々増えているのか。

〔青柳統括責任者〕

アニメのノベライズは入れている。ライトノベルに関しても入れるようにしている。ただ、大きい図書館ではないので全体のバランスを見ながら、児童書やティーンズ向けの本に関しては積極的に選書をしている。

〔藤平主査〕

意識して購入をしているわけではないが、中央図書館の選書の基準に反するものはないので、利用状況を見ながら購入していきたい。

〔加地委員〕

大人としては、子供がライトノベルやアニメのノベライズ本ばかり読んでいることに関して、名作など別のものを読んでほしいという気持ちがある。ニーズに合わせて選んでいる部分もあると思うが、昔ながらの変わらない図書館でいてほしいところもあるので、図書館としてはどのような考えか教えてほしい。

〔竹縄館長〕

私どもは行政機関であり、費用対効果が求められる中で、貸出冊数を伸ばしなさいという要請はある。手っ取り早い方法として漫画を入れる選択肢もある。そういったものが公共図書館に期待される部分なのかは議論がある。進んでライトノベルを購入するという考え方があるわけではない。図書館に足を運んでもらうきっかけとして、愛想のない本ばかりが並んでいるという印象を持たれることは、敷居を高く感じさせてしまうので、色んな方に満足していただくことは大事なことであって大変難しいこと。いただいたご意見を踏まえながら考えていきたい。

〔星崎委員〕

中央図書館と東口図書館では利用者からのリクエスト本の傾向に違いはあるのか。それぞれ図書館に来る方の年齢層の違いによってリクエスト本に違いがあれば、それにより、蔵書の傾向が変わってくるかと思う。

〔青柳統括責任者〕

若い方はリクエストカードを出してくることはあまりなく、年齢の高い方からのリクエストが多い。リクエストが入ってから、中央図書館でリクエストされているかを確認すると、たまに同じリクエストが入っていたりする。そのときは、どちらが購入するか選書会議で検討し、購入している。選書に関しては、有名作家の小説などは両館で置くようにしているが、そうでない場合は中央図書館と東口図書館で被らないように購入している。

〔秋山委員〕

自分の好みの本で、恐らくまだ蔵書にないと思う本をクエストしている。予約に関しては、人気のある本はずっと待っていないと順番が来ないが、自分の希望を満足させることができありがたいと思っている。

#### (4) 令和6年度末の蔵書資料数等について 【資料6】

○事務局説明(青柳統括責任者)

○質疑応答

- 〔北河副委員長〕 こゆるぎの図書コーナーを時々利用するが、いつも同じ本が並んでいる。本を換えたりしているのか。
- 〔植田副館長〕 こゆるぎは地域政策課が所管しており、蔵書についても地域政策課が管理している。図書については、図書館システムで図書館2館と6つのネットワーク施設を結んでいるので、利用者が希望する施設で資料の取り寄せが可能である。昨年度から中央図書館の本を一部ネットワーク施設に移管する取組をしている。昨年度はいずみに 50 冊程度を移管した。
- 〔三樹係長〕 こゆるぎの本は、地域政策課が予算を確保し図書を購入している。しかし、予算の確保が困難であり、資料の購入ができていない状況である。
- 〔藤平主査〕 マロニエ、いずみ、こゆるぎは地域政策課、けやき、国府津学習館、尊徳記念館は生涯学習課が所管しており、なかなか図書購入ができない実情がある。図書館で運営している自動車文庫で図書館以外の6つの図書室、図書コーナーに2週間に1回のペースで本を配本している。そういったことで、新しい本を手にとってもらえる機会を設けている。
- 〔加藤委員〕 電子図書館は学校の方でも学習用端末を使って閲覧している。本当は紙の本を読んでほしいので、学校では学校司書さんが読み聞かせをしたり、ブックバックをすぐ横に置いていつでも読めるようにしているが、なかなか紙の本を開くのが難しい。本校の子は、こちらに来るのがなかなか難しいので電子図書館とうまく使い分けをしながら、読書活動を行っている。

## 7 その他

### (1)令和7年度 今後の事業予定について【資料7】

○事務局説明(植田副館長)

・意見なし

### (2)委員からの質問

#### ○質疑応答①

- 〔北河副委員長〕 これだけイベントが多いと不審者への防犯対策はどのように考えているのか。
- 〔青柳統括責任者〕 予約制のものが多く、イベントを実施する部屋の入口で名簿チェックをしている。スタッフが何人かついているので予約のない方が入るということはない。今後も気を付けて対応していく。

・事務連絡(藤原主事)

次回の図書館協議会は、11月20日に開催予定。

## 9. 閉会

- 〔三樹係長〕 これをもって、図書館協議会を終了する。